



坪ノ内地区の 景観まちづくりプログラム

地域の景観資源をつなげるフットパスづくり ～坪ノ内里山巡り～

令和2年3月



目次

- 1 坪ノ内地区における景観まちづくりの背景と目的
- 2 坪ノ内地区の特徴
 - (1) 地区の成り立ち
 - (2) 交通アクセス
 - (3) 地域固有の資源
 - (4) 東京農業大学の学生から見た坪ノ内地区の魅力や提案
- 3 近隣の景観まちづくり等の事例
 - (1) 平塚市ゆるぎ地区 湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会
 - (2) 東京都青梅市 梅の里再生の取組
 - (3) 静岡県静岡市 やつやま友の会
 - (4) 東京都町田市 小野路地区
- 4 坪ノ内地区における景観まちづくりの方向性
 - (1) 目指していく将来の姿
地域に好循環を生み出すフットパス～坪ノ内里山詣り～
 - (2) 3つの実施方針
 - できることから進める
 - 地域固有の地域資源を大切に磨いていく
 - 大学やNPO、行政など多様な主体と連携し、地域内外の人を繋いでいく
- 5 景観まちづくり活動プログラム
 - (1) プログラムの展開イメージ
 - (2) プログラムの推進体制
 - (3) 坪ノ内地区景観まちづくり取組提案図
- 6 参考
 - (1) 検討経過
 - (2) 参考文献

1 坪ノ内地区における景観まちづくりの背景と目的

里地里山地域においては、少子高齢化や人口減少に伴い、地域コミュニティの低下や農業の後継者不足による耕作放棄地の増加、山林の手入れ不足等による鳥獣被害の増加など、様々な課題があります。

こうした課題を解決するためには、地域の個性と魅力を生かしたまちづくりを進め、交流人口や関係人口（＝地域と多様な関わりを持つ方）、地域のファンを増やし、地域内外へと開かれたコミュニティを醸成する必要があります。

景観まちづくりとは、その地区の景観特性を生かし、磨きをかけ、良さを引き出すことにより、地域の活性化につなげていくまちづくりの取組です。

坪ノ内地区は、里地里山景観をベースに、歴史文化や人々の暮らしが織りなす多様な景観資源存在します。また、市街地からも近く、多くの方が訪れ、交流や関係を深めていくことができるポテンシャルが備わっています。

こうしたことを背景に、坪ノ内地区では、地域住民等により構成される西部地区土地利用研究会において、平成28年度から、「景観を生かしたまちづくり」をテーマにまちづくり活動が行われています。また、東京農業大学の学生との協働による散策路整備などとともに、学生による地域まちづくりのアイデアの発表や意見交換会など、東京農業大学との多様な取組が行われています。

本プログラムでは、こうした取組の成果を踏まえ、坪ノ内地区における今後の諸活動の参考として、まとめるものです。

※本プログラムの対象範囲は、坪ノ内地区とします。

※坪ノ内地区周辺とは、西部地区土地利用研究会で活動を行っている善波地区、栗原地区も含む地区を指します。

2 坪ノ内地区の特徴

(1) 交通アクセス (図-1)

坪ノ内地区は、伊勢原市西部に位置し、新宿や横浜から、最寄りの鶴巻温泉駅まで電車で約1時間でアクセスできます。また、新東名高速道路伊勢原大山インターチェンジ(令和2年3月開通)により、車で約40分程度で訪れることができます。

鶴巻温泉駅からは、徒歩15分程度の位置にあり、路線バスによるアクセスもできます。また、主要な幹線道路である国道246号が地区内を東西に走っており、伊勢原駅から車で10分程度で行くことができます。

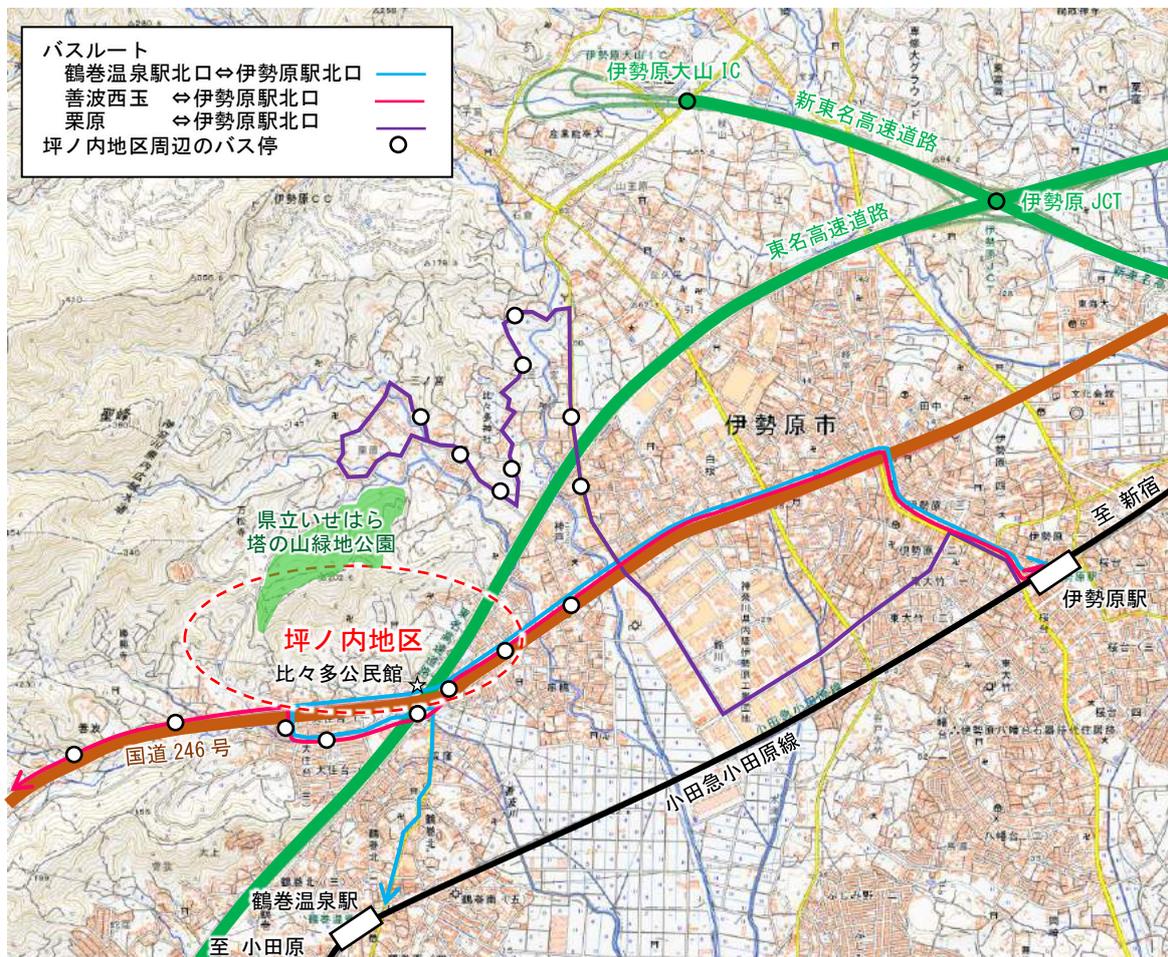
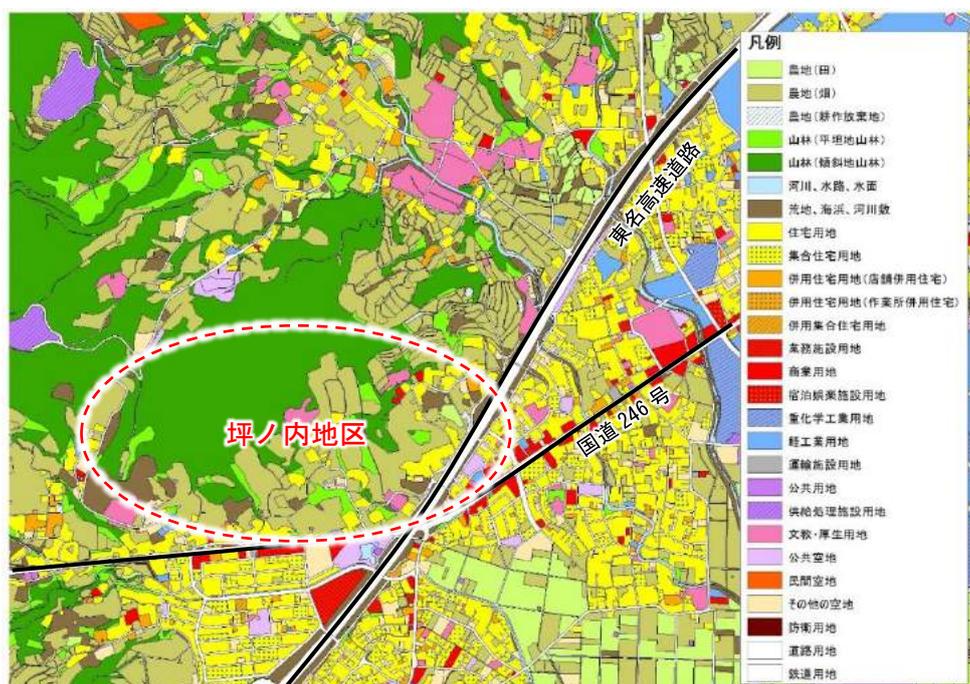


図-1 <坪ノ内地区周辺のバスルート及びバス停>

(2) 地区の移り変わり

坪ノ内地区は、国道 246 号及び東名高速道路の北側で、農地や山林が混在する自然豊かな里地里山が広がっています（図－2）。航空写真で 1970 年代後半と現在の坪ノ内地区を見比べると、集落と農地や山林が混在する、変わらぬ様子であることがわかります（図－3）。

一方、国道 246 号及び東名高速道路の南側（坪ノ内地区の一部を含む）は、土地区画整理事業が行われ、住宅市街地が広がっています。



図－2 <坪ノ内地区周辺の土地利用現況図>



図－3 <1970 年代後半（左）と現在（右）の坪ノ内地区>

(3) 地域固有の資源

坪ノ内地区では、斜面を生かしたミカン栽培に代表される自然豊かな里地里山の景観や、地域のお祭りなどが行われる八幡神社、長福寺、養国院などの社寺、登尾山古墳、うずまき岩、江戸時代の日本画家である近藤如水の墓など地域の歴史や文化を物語る数多くの資源が多く存在します（図-4）。

周辺の地域に目を向けると、日本遺産の構成遺産文化財として登録されており、「大山詣り」や相模三社など古くから崇拝された三之宮比々多神社をはじめ、しだれ桜で賑わう三嶋神社や古くから不動尊がまつられ、相模湾を一望する聖峰などがあります。神奈川県立いせはら塔の山緑地公園では、誰でも気軽に里山や緑と触れ合える環境が整っています。また、東海道の脇街道として機能し、大山参詣道の1つとしても利用された矢倉沢往還は、地域の成り立ちを今に伝えるまちの記憶となっています。

坪ノ内地区の地域資源（写真）

里山の景観



うずまき岩



八幡神社



近藤如水の墓



長福寺



養国院



登尾山古墳



坪ノ内地区周辺の地域資源（一部）

塔の山緑地公園からの眺望



ミカン



里山風景



三嶋神社



聖峰からの眺望



聖峰

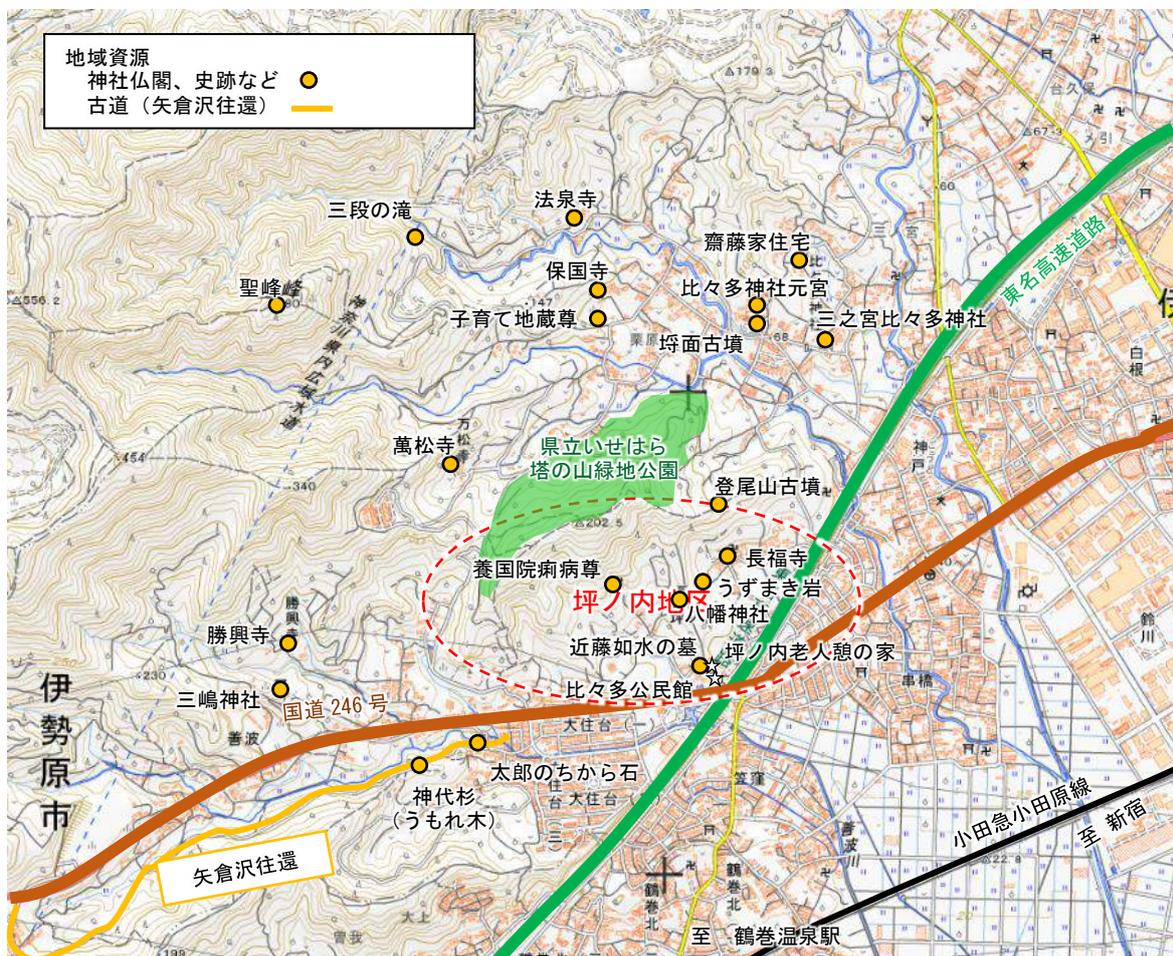


矢倉沢往還



三之宮比々多神社





図－4 <坪ノ内地区周辺の地域資源の位置図>

(4) 東京農業大学の学生から見た坪ノ内地区の魅力や提案

平成 30 年度および令和元年度において、東京農業大学の授業「源流文化学」の実習として、延べ約 200 名の学生から地区の魅力を生かしたまちづくりの取組の提案を行った。

地域の景観の特徴やや歴史文化的な地域資源を評価する一方で、案内性の向上や広報戦略の取組方、また、地域内外の人たちとの交流や関係の深め方の工夫などについて、学生ならではの意見が出されました。

主な意見は次のとおりです。

<景観が良い>

- ・小田急線から丘陵がはっきりと見えた。
- ・斜面や高台からの眺望が気持ち良かった。
- ・ミカンの木を生かした景観づくりをするとよい。
- ・緑が多いのが印象的。紅葉する樹木を植栽すると更に綺麗だと思ふ。

<案内、広報について>

- ・歴史的な資源について、看板等を置いて理解を深めることができるようにする。
- ・ルートマップを作成し周知を図ったほうがよい。
- ・見晴らしのいい場所にベンチやパノラマ看板があるといい。
- ・道しるべとなる矢印や看板を設置するとよい。

<散策路の整備について>

- ・散策路に手すりをつけるといい。
- ・木材を使用して歩きやすいように階段を設置する。

<交流や関係の深め方について>

- ・他の実習先に比べて、伊勢原は来やすく、都心からの交通利便性が高い。
- ・学生や地域の人が作っていく参加型の場所にしたらいいと思ふ。
- ・比々多八景のようなものを設定し、フットパスを作るといいのではないか。
- ・山を散策しながら、子ども向けの野鳥や昆虫の観察会を行うと楽しいと思ふ。
- ・農産物直売所など、来た人がお金を使う場所があるといい。

3 近隣の景観まちづくり等の事例

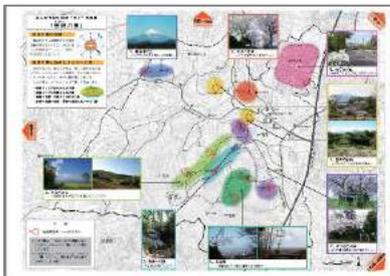
坪ノ内地区と、隣接する善波地区や栗原地区の住民で構成される伊勢原市西部地区土地利用研究会では、毎年、里地里山景観等を活用したまちづくり事例を視察研究しています。こうした中では、坪ノ内地区でも参考となる考え方がありますので紹介します。

(1) 平塚市ゆるぎ地区 湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会 (平成 25 年度視察)

農業の担い手の減少、高齢化、荒廃山林の増加等による里山環境悪化などの地域課題解決のため、自治会の役員を中心に、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」が設立されました。

産官学民の連携による吉沢地区のまちづくり及び活性化の実現を目指し、東京農業大学や東海大学との協力などとのワークショップの開催などのほか、散策路整備・景観づくり等の活動を継続して実践しています。

平成 28 年 1 月には、みんなで守り育む“さと”の風景「吉沢八景」を発表し、里地里山の保全・活用を図る取組を進めています。



吉沢八景



里地里山風景
(奥に大山が見える)



八剣神社

(2) 東京都青梅市 梅の里再生の取組（平成 29 年度視察）

梅の名所“日本一”と紹介されたこともある、地域における農資源かつ観光資源でもある吉野梅郷地域では、ウメ輪紋ウイルス（PPV）が平成 21 年 4 月に発生したことにより、市内全域で約 37,000 本の梅の木を伐採、処分しました。

青梅市が主体となり、感染状況調査や防除対策を計画的に実施することで、平成 28 年 10 月には、一部地域で梅の木の再植樹が認められました。

吉野梅郷梅まつりの開催や、個人の庭に植栽されている梅の木を楽しんでもらうオープンガーデンの実施や、街路樹や公園などへの梅の植樹など、地域一体となって梅の里再生に向けて取組を進めています。



吉野梅郷 梅の公園
（伐採前）



吉野梅郷 梅の公園
（伐採後）



再植樹された梅の木

(3) 静岡県静岡市 やつやま友の会 (平成 30 年度視察)

国道や鉄道駅に近く市街地に囲まれている谷津山は、まちの中の緑地として、市民の憩いの場として機能しています。

地域資源である谷津山の自然環境を守るため、「やつやま友の会」では、竹林の伐採等の里山保全活動に取り組んでいます。活動のメンバーの多くは隣町などから参画しており、谷津山の魅力に引き寄せられたファンに支えられています。

地権者の理解を得られたところから放置竹林の整備を行ってきており、地道な活動を進めるにつれ、理解者が増えてきたといいます。今後も、里山再生のモデルになるように活動を続けていきたいとのこと。



谷津山の案内図



散策の様子



谷津山と隣接する
市街地

(4) 東京都町田市 小野路地区 (令和元年度視察)

町田市の小野路地区は、地域のありのままの自然や文化を歩きながら楽しむフットパス (foot path=歩く小径) を活用し、地域活性化に取り組んでいます。フットパスは、イギリス発祥の文化であり、NPO 法人みどりのゆびによって、少しずつ小野路地域に浸透していきました。

平成 25 年 9 月に小野路宿里山交流館がオープンしたことで、食事の提供や休憩場所、農産物の販売などを始め、幅広い地域交流が可能になりました。TV や Facebook などでも取り上げられ、来園者が 5 年間で 20 万人を超えるなど地域活性化の拠点として機能しています。



小野路宿里山交流館 全景



歩きやすいフットパスコース



里地里山の風景
(棚田)



炭小屋

4 坪ノ内地区における景観まちづくり

2で整理した坪ノ内地区の特徴や3で紹介した先進まちづくり事例を踏まえ、坪ノ内地区における景観まちづくりの目指す姿や実施方針を検討します。

(1) 目指していく将来の姿

地域の個性と魅力を生かした、多様な交流が生まれる地域

坪ノ内地区は、里地里山の景観と、地域の歴史・文化に裏付けられた多様な地域資源が存在します。しかしながら、多くの人はこれに気付かず、眠ったままになっています。

今後、持続可能な地域づくりを進めていくには、これらの地域資源を生かし、磨き、つなぎ、地域総体の魅力を向上させていくことが重要です。また、地域の魅力を内外に伝え、地域と交流する人や関係する人々を増やすことで、多様な交流が生まれる地域としていきます。

(2) 基本方針

フットパスにより地域をつなげる景観まちづくり

坪ノ内地区では、景観を生かしたまちづくりの一環として、平成28年度から散策路整備に向けた検討を始めており、平成30年度および令和元年度には、東京農業大学の学生と地域住民の協働による整備を行っています。

また、近年では、登山やキャンプなどの自然を感じるアウトドアや、ありのままの自然を散策して楽しむフットパスや、農村民泊などのアグリツーリズムなどが人気となっています。里地里山のみどりは市街地に住んでいる方にとって安らぎや潤いを与えるものであり、再評価されています。

こうしたことを踏まえ、市街地に隣接する坪ノ内地区の地理的状況および里地里山や歴史文化財の地域資源を生かし、低予算で柔軟に整備を進められるフットパスを取組の中心に据えるとともに、地域外から人を惹きつけ、つなげていく景観まちづくりを進めていきます。

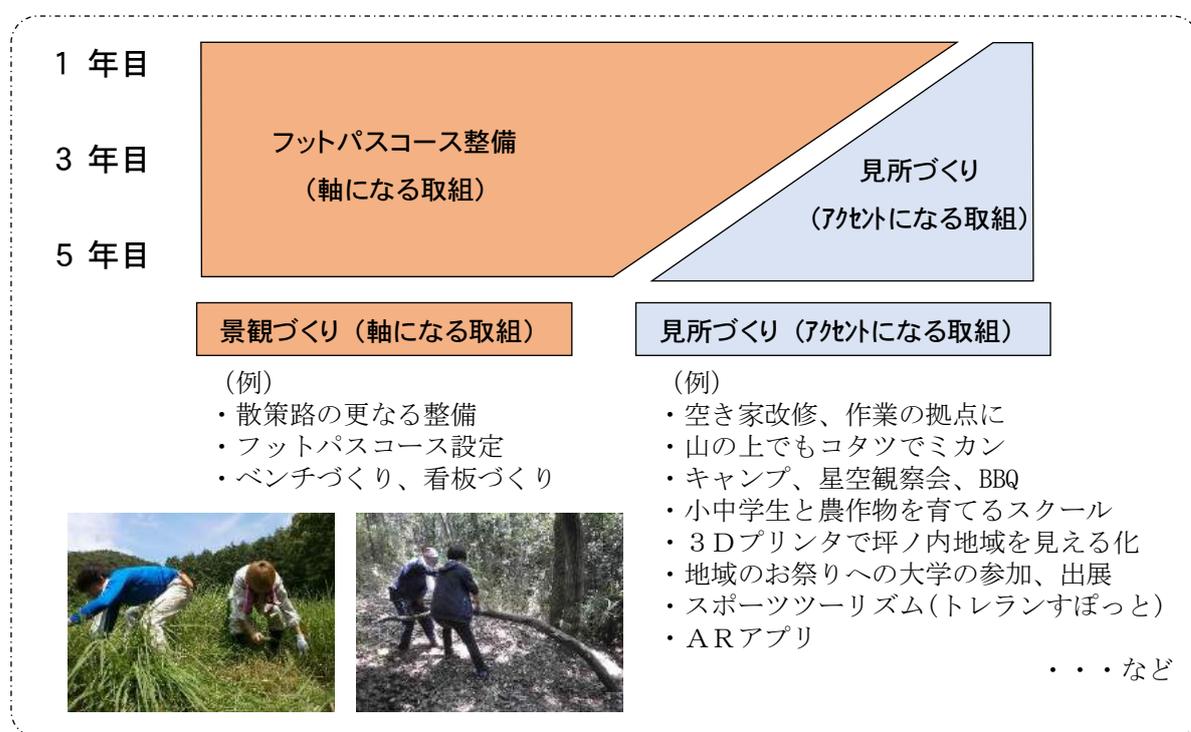
5 景観まちづくりプログラム

(1) プログラムの展開イメージ

坪ノ内地区における景観まちづくりは、次のようなイメージを持って、取り組んでいきます。(下図)

初期は、フットパスコースの整備などに取り組めます。具体的には、散策路整備やコースの設定、看板の設置などです。

まずは、こうした軸となる取組を進めていながら、徐々にイベントの実施や交流機能の強化などを進めます。



(2) プログラムの推進体制

次の主要なメンバーにより、本プログラムを推進していきます。

また、具体の取組の実施にあたっては、周辺住民などの理解・協力・支援により進めていきます。

[主要なメンバー]

伊勢原市西部地区土地利用研究会坪ノ内地区会員
東京農業大学地域創成科学部地域創成科学科町田研究室
伊勢原市

6 参考

(1) 検討経過

- ・平成 29 年 11 月 21 日 坪ノ内地区の魅力や課題について
- ・平成 30 年 2 月 9 日 坪ノ内地区周辺の現地調査



地区の皆さんと調査



斜面地からの眺望を
確認



県立いせはら塔の山
緑地公園からの眺望

- ・平成 30 年 7 月 21 日、22 日 学生との協働による下草刈り・ワークショップ



下草刈り



出発時の
ガイダンス



学生による
ワークショップ

- ・平成 30 年 2 月 坪ノ内地区の今後の取組みについて
- ・令和元年 6 月 1 日、2 日、7 月 6 日 学生との協働による散策路整備や
ワークショップ



歩きやすくなった
散策路



鍬で拡幅する様子



(2) 参考文献

- ・伊勢原市観光ガイドマップ
- ・伊勢原比々多地区の歴史探訪
- ・いせはら文化財サイト_日本遺産の概要
(<https://www.city.isehara.kanagawa.jp/bunkazai/docs/2017041800078/>)
- ・相模国神社祭
(<http://eda.myhome.cx/taiko-2008/private/tubonouchi.html>)
- ・神奈川中央交通ホームページ
(<http://www.kanachu.co.jp/>)
- ・平成 29 年度伊勢原市市民協働事業報告書
比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発
(東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科町田怜子助教_平成 30 年 3 月)
- ・平成 30 年度伊勢原市市民協働事業報告書
比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発
(東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科町田怜子助教_平成 31 年 3 月)
- ・東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科学生 2 名によるレポート等